

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

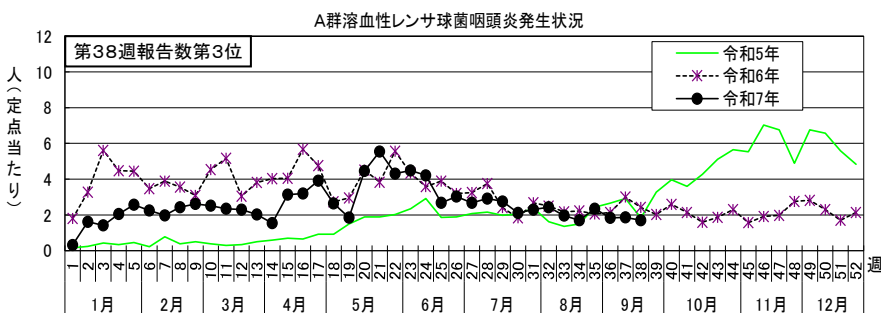
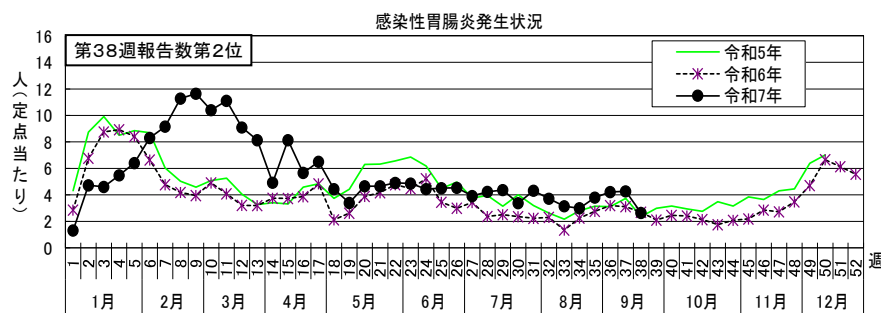
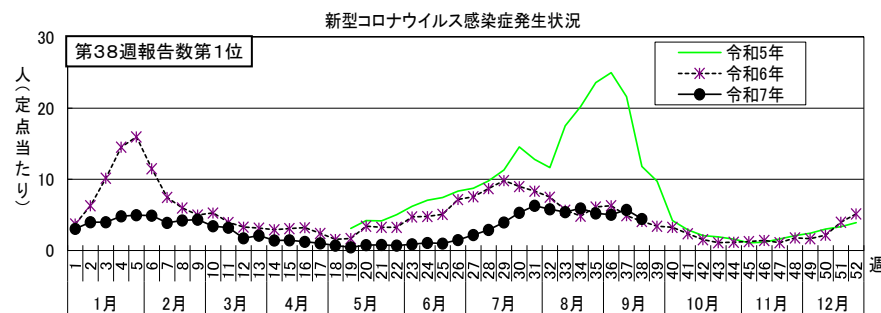
令和7年9月15日（月）～令和7年9月21日（日）〔令和7年第38週〕の感染症発生状況

第38週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.43人と前週（5.72人）から横ばいでした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.65人と前週（4.27人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.70人と前週（1.86人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

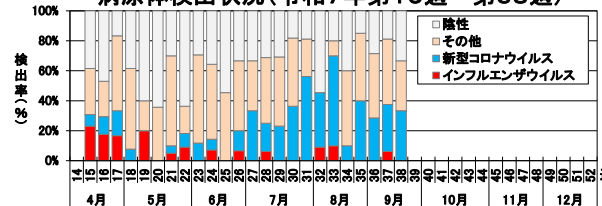


急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスの実施状況

我が国では、令和7年4月7日から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されました。川崎市における定点当たり報告数は、第38週（9月15日～21日）に68.40人と、第20週（5月12日～18日）以降70.00人前後で推移しており、大幅な増減はみられていません。

病原体定点医療機関からは第38週までに計332件の検体が搬入され、このうち220件から病原体が検出されました。内訳は新型コロナウイルスが78件と最多で、次いでヒトパラインフルエンザウイルスが62件でした。特に7月以降は新型コロナウイルス感染症の報告数の増加に伴い、新型コロナウイルスが多く検出されています。

川崎市における急性呼吸器感染症の病原体検出状況(令和7年第15週～第38週)



川崎市において急性呼吸器感染症の検体から検出された主な病原体(令和7年第15週～第38週)

病原体	検出数（件）	検出率
新型コロナウイルス	78	23.5%
ヒトパラインフルエンザウイルス	62	18.7%
ライノウイルス	43	13.0%
インフルエンザウイルス	18	5.4%

（複数検出された検体あり）

【ヒトパラインフルエンザウイルスとは】

鼻炎や咽頭炎、気管支炎等を起こす小児を中心とした急性呼吸器感染症の主要な原因ウイルスの1つ。多くは自然に軽快する。

【ライノウイルスとは】

鼻閉やくしゃみ、咳等を起こすウイルスで1年中みられる。喘息を増悪させることもあるが、多くは軽症にとどまる。

川崎市における急性呼吸器感染症の発生状況(令和7年第15週～第38週)

